

院内情報

- 1月4日(木) 仕事始め、互礼式
- 2月19日(月) 創立記念日及び平成18年度永年勤続表彰式
勤続30年1名、20年2名、15年6名、10年2名、5年7名、合計18名
以上の方が表彰されました。
- 4月2日(月) 入職式
新入職者44名の方が決意を新たにそれぞれの職へ就かれました。
- 5月12日(土) 越智隆弘先生 骨関節センター

長就任並びに創立75周年記念感謝の会

- 6月18日(月) 病院機能評価 Ver.5 認定の通知
- 6月18日(月) 厚生労働省より「DPC準備病院の申出」受理通知



入職式

行岡病院 教育・研修会

- 2月14日(水) 18:00～
研修会名：リフレッシュコース2007
開催部門：看護部
講師：麻酔科 田中先生 講演内容：概論
- 3月14日(水) 18:00～
研修会名：リフレッシュコース2007
開催部門：看護部
講師：検査科 徳田技師長
講演内容：医療機器の取扱い
- 4月26日(木) 13:00～
研修会名：接遇研修会
開催部門：接遇教育委員会・教育研修委員会

講師：方一如 先生

講演内容：「魅力ある応対について～美と健康から～」

- 5月30日(水) 17:30～

研修会名：学術勉強会

開催部門：教育研修委員会

講師：行岡久美子副理事長・行岡秀和副院長

講演内容：「せん妄と認知症について」

「認知症評価スケールについて」

- 6月13日(水) 18:00～

研修会名：リフレッシュコース2007

開催部門：看護部

講師：麻酔科 田中先生

講演内容：「パルスオキシメーター」

(平成19年1月より掲載)

学園情報

- 1月10日(水) 仕事始め
- 2月19日(月) 平成18年度永年勤続表彰式(行岡病院4階多目的ホール)
勤続30年3名、5年2名の先生方が表彰されました。向後更なるご活躍を期待致します。
- 3月9日(金) 卒業式
学園茨木校舎講堂に於いて、10時30分より行岡医学技術専門学校・行岡鍼灸専門学校2校の、また13時30分より近畿医療技術専門学校・行岡整復専門学校・行岡リハビリテーション専門学校3校合同の卒業式が挙行されました。
- 4月2日(月) 入職式
病院と合同の入職式が午後1時30分より開催されました。理事長行岡正雄先生挨拶後、各教職員へ発令がありました。
- 4月10日(火) 入学式
＜午前の部＞歯科衛生科、看護第1学科、看護第2学科、鍼灸科昼間部・夜間部
＜午後の部＞放射線科、臨床検査科、整復科、

理学療法学科昼間部・夜間部

学園8学科に468名の新入生を迎えました。教職員一丸となって学生さんのそれぞれの免許取得のために、また社会より望まれる医療人を育てて行きたいと思ひます。



- 5月12日(土) 学園長就任披露・創立75周年記念感謝の会(於 リーガロイヤルホテル)

- 6月14日(木) 戴帽式(歯科衛生科)

茨木校舎講堂に於いて、午後1時30分より歯科衛生科第42期生が戴帽を受けました。

編集後記

病院機能評価 Ver.5の認定は病院のみならず学園にも大きな「感動」をもたらしました。おりしも今年は病院・学園開設75年の記念の年。

今、まさに追い風に大きな帆を張り「行岡丸」が更なる大海原に進出する時が来ました。これから押し寄せる荒波(DPC、電子カルテ、学生確保、看護7対1へのチャレンジ等)にも協同の心で培った羅針盤をしっかりとって乗り越えて行きましょう。

今回で20号を迎えたひこばえにも「つぼみ」が芽生えました。(表紙をご覧ください)

このつぼみを育み大輪の花を咲かすのは私達自身です! (編集委員 H. F M. T)

ひこばえ

Vol.20

—ゆきおかニュース—

行岡病院・行岡学園 広報部 大阪市北区浮田2-2-3 TEL: 6371-9921(代)
行岡病院 <http://www.yukioka.or.jp/> 行岡学園 <http://www.yukioka.ac.jp/>



創立75周年に思う

骨関節センター長
行岡学園 学園長
越智隆弘



行岡病院、行岡保健衛生学園が創立75年を迎えたことは本当に素晴らしい慶事である。社会的背景や医療制度の変化の中を乗り越えてきた75年間というのは大変な期間であり、職員、諸関連医療関係者、そして地域の大きな支持のおかげと改めて感謝したい。

当院創立早期の頃、最も重要な診療対象は感染症と、戦傷者や諸種の外傷患者などが中心の地域医療であっただろうが、抗生物質も乏しい時代に少数の医療従事者で日夜を問わぬ診療が続けられ、地域医療を維持した当院の大きな役割に心から敬意を感じる。

当院で始めて勤務した時に、私がそれまでに経験した他院と比較して印象深かったのは外来診療の仕組みであった。8人くらいの患者が夫々の処置席に座る。夫々に看護婦さんがつく。一人の医師が端から診て指示をだして進む。端まで行った時にはもう一端の処置席には次の患者さんが座っている。手際よい外傷処置に感心しながら勤務についていた。

初代、忠雄理事長は威厳に満ちた軍人を思わす方だったが、院内ではラフな感じで居られたので面識のない人は気づかなかった。当院の救急患者処置室は夜になっても多くの患者で混みあっていたが、或る夏の夜、非常勤で当直勤務につ

いていた若い医師が複雑な開放創の縫合を試みていた。彼は背中の方から「あそこあそこを先ず縫うのだ。」という声を聞いた。振り返るとステテコ姿のおじさんが居る。「なにを。このくそ親父。黙っとれ。」と言った。そのおじさんはそれ以上何も言わずに当直医師の手元の動きを見ていた。あとでそのおじさんが理事長であったことを聞いたその医師は真っ青になっていた。庶民的な当院の雰囲気は私には心地よく、想像を超える多忙な勤務もこなし続けることが出来た。大学からの指示もあり、当時救急入院した重症外傷患者のかかなりの人数が転院した大阪厚生年金病院で最重症患者の治療を学ぼうとへ異動した私に、理事長は強い語調で「君はまた来る」と言って下さった。そのお言葉に甘えて、私はその後もしばしば当院には出入りさせて頂いた。

今は社会的背景も医療事情も大きく変わった。患者へのインフォームドコンセントに基づいて高いレベルの医療が求められる時代になった。時代に合わせて当院の医療スタッフも一層充実し、多施設からも多くの患者さんが紹介されて受診している現状はまさに創立100年に向けての力強い足取りと考えている。その中で、地域に更に求められる医療は何か、職員全員が夢をもてる医療は何か、今後の安定経営のために夫々が何に留意するべきか等々の課題は多い。現在の厳しい医療事情の中を当院が右肩上がりに切り抜けてゆくために、職員全体が現状を認識して各任務向上を工夫してゆかねばと思う。全員の夢の実現と幸せのために皆で頑張らねばと思う。

越智先生就任披露・

行岡病院 行岡学園 創立七十五周年感謝の会開催!!



於 リーガロイヤルホテル

創立75周年記念感謝の会の開催について

行岡病院 事務長代行 松田 雄二

行岡病院及び行岡学園が創立以来75周年を迎え、感謝の気持ちをどのように表していくのがよいか、そして祝宴をどのように盛り上げるか、ということが大きな課題でした。そこで今回は、会の進行はできるだけ職員による“手作りの宴会”で全体の構成を行うことを主眼に企画しました。

とりわけ、職員によるパフォーマンスをいくつか用意し、ご出席の皆様喜んで頂けるようにと、心がけました。お陰様で手作りの演出によるいくつかのパフォーマンスは好評を頂きました。皆で力を合わせて一つの

ことを成し遂げる、まさに当院の院是である「協同」がここに表れていると思うと同時に、当院及び行岡学園の潜在的な＜大きなパワー＞を感じたのは私だけではなかったと思われま

75周年に寄せて

看護部 7階 横道 直美

長い歴史の中で、時代の流れと共に、行岡病院も大きく発展、変化を遂げてまいりました。

先日75周年記念パーティーでは、師長・主任合同で、『お祝いの舞』を披露させていただきました。当日は、私たちの大盛況・大成功で終わりましたが、皆さんの目にはどう映っていたのかは・・・当日は、袴姿で華麗に？舞ったのですが、準備はとっても大変でした。袴に決まるまでの間も、決まってから後も意見は様々で、「こんな格好しなくても。」とちょっとブルーな気分でした。それでも、なんとか看護部で祝賀会を盛り上げようと、必死になってみんなで一生懸命取り組みました。そして、ブルーな気持ちを心のどこかに残しつつ、当日を迎えました。ところが、当日会場に着き、意外と私たちがその場にしっかり納まっていることにびっくりしました。それどころか、「これぐらいしてちょうどいいかも。」なんて思ったりもしました。越智先生ご就任の歓迎と、75周年のお祝いに、花を添えられたのでは・・・と、大仕事を終えたような、そんな気分でした。これから先も、医療界は厳しい時代になっていくと思いますが、看護部も一致団結し、地域の皆様に愛される病院になるよう、日々努力していきたいと思っています。



75周年記念パーティー開催に際して

リハビリテーション科 小川 卓也

＜行岡一座＞による＜松健サンバ＞のパフォーマンスの座長を務めさせていただきましたリハビリテーション科の小川卓也です。わたくしサンバに関してはズブの素人で、一座のメンバーも誰一人踊れる者はいませんでした。

さらに、メンバーの平均年齢は30歳以上、平均BMIも30以上と非常に“メタボリックな集団”を率いて、絶望的な条件のなかで、松健サンバを2週間という短期間で完成させなければならず、しかも舞台は忘年会ではなく75周年記念パーティーということで失敗は許されない状況で、このようなプレッシャーの中、練習はスタートしたのですが、練習開始時間はそれぞれの業務終了後のAFTER 7に男10人が汗をかきながらステップを踏むというなんとも奇妙なものでした。そして練習を夜な夜なしていく中で、不思議なことに自分自身の身体の中にサンバのステップが刻み込まれていき、同僚のH・T氏などは、業務時にも気付けばステップを踏んでいるという映画「Shall we Dance?」の1シーンを髣髴とさせるようなレベルにまで達していました。練習の甲斐あってか、本番の舞台では思いっきり踊ることができました。このような機会を頂いた関係者の皆様に深く感謝いたします。

平成19年度 新入職員からのメッセージ

整形外科 医師 衣笠 和孝

この度、平成19年4月に大阪厚生年金病院整形外科より行岡病院整形外科に赴任してまいりました。大阪厚生年金病院では、脊椎、肩、手、股、膝関節、リウマチと幅広く変性疾患を中心に勉強させていただきましたが、行岡病院では骨折を中心とした急性期疾患とスポーツを中心に勉強させていただいています。4月から赴任して3ヶ月ですが、行岡病院は救急に力を入れているということもあり、既に数多くの症例を経験させていただき、2年ぶりに麻酔もかけさせていただきました。まだまだ慣れないことも沢山ありますが、早く行岡病院の歯車のひとつとして機能できるようがんばらなければならないと思っております。皆様に迷惑をかけることもあろうかと思いますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

看護部 田中 力

看護部に所属しました田中力です。6階の外科・整形外科病棟に配属されました。まだまだわからないことが多いですが、先輩方のご指導を受けながら、日々行岡病院の看護師としての自覚を持ち、看護を行っています。男性看護師ということで、不安が大きかったですが、患者様や先輩方に、性別に関係なく接して頂いており、また、私自身も患者様に早く良くなって頂きたいという思いで看護を行うことにより、不安は徐々に解消しています。

看護部の理念である「看護専門職として患者様に安心し、満足して頂けるように“愛ある看護”を目指す」ことをいつも心に考えながら、看護を行いたいです。

看護部 中本 智子

7階回復期リハビリ病棟に勤務することとなりました。配属されてから3ヶ月が経ちますが、看護師が命に関わる仕事であることを改めて実感しています。ときには、医療専門職としての責任の重さに挫けそうになることもありますが、患者様からの「ありがとう」という言葉や患者様がリハビリに励まれる姿を見て、私の方ががんばる力をもらっています。

今はまだ先輩方に助けられ、技術の習得や業務を覚えながら、一日をこなすことに精一杯の毎日です。これから学習や経験を重ね、患者様にとっての最良の療養環境を整えられるスタッフの一員となれるよう頑張りたいと思っています。

専任教員(鍼灸科) 玉村彰一郎

行岡鍼灸専門学校に入職しました玉村彰一郎です。早くも3ヶ月あまりが過ぎましたが、時間が経つのがとても早く感じられました。

はじめて学生の前で授業を行ったとき、授業準備としていろいろと計画を立て、万全の体制で臨んだつもりでしたが、授業が終わったときには後悔の嵐で、「あれを言うのを忘れた。」「これはもっと、こう説明すればよかった。」と、自分の至らなさを痛感させられました。恥ずかしい話ですが、まさに学生が先生で、その反応を伺いながら現在、自分の教員としての腕を磨かせてもらっているといった感じです。

最後になりましたが、諸先生方が培われた70年余り続く伝統ある行岡の名に恥じないように、重責ではありますが、常に研鑽しながら初心を忘れず頑張っていきます。





「病院機能評価Ver.5 認定される」

「病院機能評価」一審査を終えて一 副院長 行岡 秀和

当院は、財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の結果、2007年5月28日「バージョン5.0」で認定されました。病院機能評価とは、病院の各種機能について客観的に調査し、すべての評価項目が一定水準以上である場合に認定証が発行される制度です。全国9014病院のうち、認定病院数は2370であり、今回、最新の「バージョン5.0」で認定されたこととなります。多くの病院がコンサルタントによる支援を受けていると聞いておりますが、当院は全くの手作りで、資料を作成し審査を受けたわけで、職員のみなさには大変な労力であったろうと察しております。改めてご協力に感謝申し上げます。

病院機能評価が最も重視するものは、安全管理であると思っております。これは、患者様の安全ばかりでなく、職員・薬剤・検査・医療機器、電気・ガス・水道などのライフライン、情報などを含めた安全対策です。本院でも月に1回定

病院機能評価の認定を受けるにあたって 看護部長 高山 妙子

「病院機能評価の受審をする」との連絡を受け、しかも今回はVer.5での審査、周りで認定された病院もあまり聞かないので、どこから取り組むのがよいか。」と一瞬途方にくれました。Ver.5から新たに「医療の質と安全のためのケアプロセス」の領域が設けられていて、看護部と医師の一層の協力体制が問われていることが分かり、逆に「看護部の目標がはっきりし、これから取り組むことによって、さらに看護部の質を向上させることができる」と自分に言い聞かせました。

その後は看護部全体に呼びかけ、師長を中心としてひとつ一つの項目に取り組むんでいきました。途中で何度もくじけそうになりましたが、看護部の皆さんが徹夜もいとわない態勢で、全員が＜協同＞の精神で今回の高いハードルを乗り越えてきました。

この度認定を得られたことは、なにより職員の強い絆の賜物であると、感謝しています。

期的に安全管理委員会が開催されております。また、必要時には臨時の職員会が開かれます。安全管理委員会のメンバーは、医師ばかりでなく、看護師、検査技師、薬剤師、事務職員など多職種にわたり、安全にかかわるすべての問題を討議しております。今後さらに安全対策を充実しなければならないと思っております。

ところで、先般四国の病院を見学する機会がありました。この病院は規模、診療内容ともに当院と類似しております。念願の新病院ができ、2週間後に引越したというあわただしい中で、新病院と旧病院の両方を見学させていただきました。旧病院は本院とよく似た構造で、親近感を覚えました。一方、新病院を見学して、ため息が出ました。ハードウェアの充実は、当院にとっても最重要課題であります。病院機能評価で得たノウハウを、ハードウェアの充実に向けるべき時です。

機能評価の認定にあたって 医事課 課長代行 寺前 為之

病院機能評価 (Ver.5) の受審及び取得にあたって、当初なんと無謀な！という気持ちと思いがあり医事課としてどのように対応し、何をしなければならないのか途方にくれました。とにかく自己評価票に基づき一つ一つクリアしていくことを考え、医事課内での打ち合わせ及び業務分担を行い、各自が資料やマニュアル作りを行いました。第1回目の訪問調査を受けることとなりましたが、やはり改善事項の指摘を受けました。その後19年3月にカルテの整理が終わり再調査を受けることまでにこぎつけました。その結果、今回の取得に医事課として結びついたと考えます。

今回の病院機能評価の受審にあたり医事課の業務見直し、診療報酬の再確認及び接遇の大切さ等、色々な形で初心に戻れたこと、そして全体の連帯感もより一層強くなり、今後の日常業務に生かして継続していきたいと考えます。

最後になりましたが、医事課職員の頑張りや努力に感謝したいと思います。

病院機能評価受審で臨床検査室が得たもの 中央臨床検査室 技師長 徳田 浩文

病院機能評価の受審には、臨床検査に関わる審査項目は他部署に比べてそれほど多くないと安易に考えていました。審査日まであと少しと迫ってきた頃、そろそろゴールも近いかなと見上げると、山頂どころか、まだ五合目にも至っていません。楽観視していたツケが廻ってきたと半ば諦めかけました。それでも、臨床検査室の前進が止まることはありませんでした。そこにはゴー

ルへ向かって最後まで諦めずに歩み続ける技師たちがいました。立ち止まってため息をついていたのは私だけでした。先導しながらここまで進んできたつもりが、皆に手を引かれてきたのは私自身だったようです。

今回の認定という結果よりも全員が団結し協力しながら歩んできた道のりこそが最大の収穫であり一番の宝となりました。

これからもこの気持ちを忘れず、患者様や地域の皆様からの評価に耐えられるよう頑張ります。



病院機能評価とは

行岡病院は（財）日本医療機能評価機構による「病院機能評価（Ver. 5）」の審査を受けた結果、平成19年 6月15日付で「認定」を頂きました。

第三者機関による評価は一般企業ではISOなどがよく知られていますが、病院が病院機能評価の審査を受けることは、次の意味があります。

第1に、患者様サービスの改善と向上です。

医療機関が行う患者様へのサービスは、医師や看護師、薬剤師、検査技師等いろいろな職種にわたる専門職の集合であり、より質の高い医療を行うには病院内が組織体として機能することが求められ、当院の院是でもある「協同」の精神が、まさに必要とされるところです。医療機関自身の努力による自己評価はもちろんでありますが、第三者による客観的な判断と評価がなければ、単に自己満足に陥ってしまい、発展的な効果は期待できません。病院機能評価を受審することにより、病院の位置づけを明確にできると同時に改善すべき内容や今後の目標についても一層明確になります。

第2に、患者様からの信頼度の増加です。

第三者機関による評価は、何より患者様が安心して受診できる医療機関として重要な意味があります。「やさしい医療を実践します」との当院の理念は、実は患者様が安心して受診できる医療機関であることを意味しています。

以上のことから病院機能評価の重要性は、今後ますます大きくなるものと思われます。

今回、当院は病院機能評価（Ver. 5）の認定を受けることができましたが、これに甘んじることなく、今後とも職員一同、精進を重ねていく所存です。